

# 2014 年度事業活動報告書



2015 年 5 月

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

## ユネスコ憲章前文

この憲章の当事国政府は、その国民に代って次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳、平等、相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人類の不平等という教義をひろめることによって可能とされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和は、それが失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るために、この伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

# 1. 福岡ユネスコ文化講演会

(1)テーマ：「日本人の墮落時代 夢野久作」

講師：四方田犬彦氏(よもた・いぬひこ、映画史家)

日時：2014年5月17日(土) 14:00～16:00

会場：電気ビル共創館3階 カンファレンス大会議室(福岡市中央区渡辺通)

参加者：63人

**【企画意図】**：2014年は明治22年(1889年)に福岡市で生まれた作家、夢野久作の生誕125周年にあたる。映画化された奇書『ドグラ・マグラ』をはじめとする怪奇的、SF的な作品の他に、関東大震災後の東京のルポルタージュ『東京人の墮落時代』などジャーナリストとして書いた作品もいくつかある、作家夢野久作の人間像、世界観、福岡との関係などを探るとともに、3.11以後の現代の日本の状況と比較しながら、夢野久作の可能性について語ってもらうもの。

講師略歴：1953年大阪府生まれ。専門は比較文化、映像学。

明治学院大学教授として長く映画史を講じ、アジア映画を中心とした映画論、映画作家論など映画に関する著書多数。また、中上健次に関する作家論や外国文学の翻訳など文学に関しても旺盛な活動を行ってきた。韓国・建国大学やイスラエルのテルアヴィヴ大学等で客員教授を務めるなど外国における教員経験も豊かである。

主な著書・編著書：『貴種と転生—中上健次』『電影風雲』『李香蘭と原節子』『モロッコ流謫』(伊藤整文学賞)『ソウルの風景—記憶と変貌』(日本エッセイストクラブ賞)『先生とわたし』『日本映画は生きている 全8巻』(共編)『日本のマラーノ文学』(桑原武夫学芸賞)『アジアの文化は越境する』(2010年当協会でのセミナー)『大島渚と日本』『ルイス・ブニュエル』(芸術選奨文部科学大臣賞受賞)他多数

主な訳書：ポール・ボウルズ著『優雅な獲物』、エドワード・サイード著『パレスチナへ帰る』、ピエル・パゾリーニ著『パゾリーニ詩集』他



(講演) 四方田犬彦氏

## 福岡ユネスコ文化講演会

# 四方田犬彦講演会

テーマ

夢野久作生誕 125 周年記念

後援：福岡市教育委員会

## 「日本人の墮落時代 夢野久作」

今年、明治22(1889)年に福岡市で生まれた作家、夢野久作の生誕125周年にあたる。明治政界の黒幕と言われた杉山茂丸の長男として生まれ、映画化された奇書『ドグラ・マグラ』をはじめ、怪奇的、SF的な作品から、九州日報の記者として書いたルポルタージュの傑作『街頭から見た新東京の裏面』、エッセイ風人物論『近世快人伝』など多様な作品を数多く生み出した。四方田犬彦(よもた・いぬひこ)氏が、現代の予測不能な社会状況において、この不思議な地元作家を世界文学の広い射程の中で語ります。



2014年 **5月17日(土)** 14:00~16:00

**電気ビル共創館3階** カンファレンス大会議室  
(福岡市中央区渡辺通2丁目、定員180人)

料金 一般：事前申込 1,000円(当日1,200円) 学生・留学生 500円(事前・当日とも)

申込み方法 催し名(「四方田犬彦講演会」、氏名(参加者全員)、連絡先 FAX またはメールアドレス、一般/サポーター/学生の別を明記の上、メールか FAX で申し込んでください。締め切りは**5月15日(木)**。  
●メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com  
●FAX: 092-733-1291

主催：問い合わせ先 一般財団法人福岡ユネスコ協会 (平日10~17時)  
福岡市中央区薬院2丁目4-5-702  
TEL: 092-715-8768 FAX: 092-733-1291

【略歴】1953年大阪府生まれ。専門は比較文化、映像学。明治学院大学教授として長く映画史を講じ、アジア映画を中心とした映画論、映画作家論など映画に関する著書多数。また、中上健次に関する作家論や外国文学の翻訳など文学に関しても旺盛な活動を行ってきた。韓国・建国大学やイスラエルのテルアヴィヴ大学等で客員教授を務めるなど外国における教員経験も豊かである。主な著書・編著書：『貴種と転生-中上健次』、『電影風雲』、『李香蘭と原節子』、『モロッコ流談』、『伊藤整文学賞』、『ソウルの風景-記憶と変貌』、『日本エッセイスト・クラブ賞』、『先生とわたし』、『日本映画は生きている』(全8巻、共編)、『アジアの文化は越境する』、『大島渚と日本』、『ルイス・ブニエール』(芸術選奨文部科学大臣賞) 他  
主な訳書：ポール・ボウルズ著『優雅な獲物』、エドワード・サイード著『パレスチナへ帰る』、ビエル・パオロ・パソリーニ著『パソリーニ詩集』他

FAX送信用 FAX : 092-733-1291

※複数でお申し込みの場合は**全員のお名前**をご記入願います。5/15(木)までに当協会から申込受理の返信がない時は必ずお問い合わせください。

ふりがな 氏名	※返信可能な連絡先をご記入ください。 Fax Email
	参加人数 一般( )名、学生( )名、留学生( )名

(2) テーマ：「葉室麟の世界にふれる」

講師：葉室麟氏（はむろ・りん、作家）

トークショー聞き手：和泉僚子（いずみ・りょうこ、文学研究家）

日時：2015年3月4日（水） 14:00～16:00

会場：ウェルとばた・戸畑市民会館中ホール（北九州市戸畑区汐井町）

共催：北九州市

参加者：257人

【企画意図】：小倉生まれの直木賞作家葉室麟さんは、直木賞受賞作の『蝸ノ記』が映画化されるとともに、松本清張賞受賞作の『銀漢の賦』が「風の峠」としてテレビドラマ化されるなど注目を集めている。

出身地の北九州市で講演とトークショーにより、作家になろうとした経緯や作品の背景を語ってもらうことにより、聴衆に葉室麟の世界にふれてもらうもの。

講師略歴：1951年北九州市小倉生まれ。

西南学院大学卒業後、地方紙記者、ラジオニュースデスク等を経て、2005年に『乾山晩秋』で歴史文学賞を受賞し、作家デビュー。

『銀漢の賦』で松本清張賞受賞、2012年に『蝸ノ記』により第146回直木賞受賞。

主な著書：『秋月記』『春風伝』『いのちなりけり』『秋月記』『刀伊入冠 藤原隆家の闘い』『螢草』『春風伝』『天の光』『随筆集 柚子は九年で』等

聞き手の略歴：福岡市総合図書館に地元の近代文学資料を扱うために設置された「福岡文学資料室」の専門員を務めた後、「福岡市文学館」の学芸担当として明治期から現代までの福岡の近代文学の資料収集、研究を行う。2009年より西日本新聞日曜版の書評を担当



(講演) 葉室麟氏



和泉僚子氏との対談

# 福岡ユネスコ文化講演会 & トークショー

テーマ はむろ りん

# 葉室 麟の 世界にふれる

入場無料  
要事前申込

2012年に第146回直木賞を受賞した著書『蜩ノ記』が映画化されるなど、その活躍がますます注目される作家の葉室 麟さんを自身の出身地北九州市にお招きし、講演会&トークショーを開催します。トークショーでは事前に皆様からお寄せいただいた葉室さんへの質問にお答えさせていただきます。サイン会も予定しておりますので是非ご参加ください。

[日 時] 2015年

3月4日(水)  
14:00~16:00

[場 所] ウェルとばた  
戸畑市民会館 中ホール

JR戸畑駅下車南口から徒歩1分(戸畑区汐井町1-6)  
TEL093-871-7200

[入場料] 無料 (事前申込みが必要です)

[定 員] 300名 (申込み多数の場合は  
抽選とさせていただきます)



葉室 麟 (はむろ・りん)氏

1951年福岡県北九州市小倉生まれ。作家。西南学院大学卒業後、地方記者、ラジオニュースデスク等を経て、2005年『乾山晩愁』で歴史文学賞を受賞し、作家デビュー。『銀漢の賦』(07)で松本清張賞、『蜩ノ記』(12)で直木賞を受賞。その他の作品として『秋月記』『螢草』『天の光』等。

トークショー聞き手

和泉 僚子 (いずみ・りょうこ)氏

書評家、福岡女子短期大学非常勤講師。福岡市総合図書館、福岡市文学館で特別資料専門員を務めた後、新聞等に書評を執筆。

申込み  
方法

郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・参加人数(同時申込み3人まで)と葉室さんへの質問があれば記入のうえ、往復ハガキでお申し込み下さい。締切:平成27年2月10日(火)必着

返信ハガキの表面には、返信先住所・氏名を記入し裏面には何も書かないで下さい。

申込み  
問合せ先

〒803-8501 北九州市小倉北区城内 1-1  
北九州市市民文化スポーツ局文化振興課内

「福岡ユネスコ文化講演会」係  
Tel.093-582-2389

主催:一般財団法人 福岡ユネスコ協会 / 北九州市

## 2. 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

**目 的：**福岡市が他都市に先駆けて長年取り組んできている、福岡市のアジア施策の柱の一つである「福岡アジア文化賞」の過去の受賞者を招聘して、その人の最新の研究成果や現代の日本人が課題として共有できるようなテーマでご講演いただき、質の高い文化情報を福岡から発信するもの。福岡市教育委員会、映像ホール・シネラ実行委員会との共催事業

**日 時：**2014年11月24日（月・振替休日）13：30～17：20

**会 場：**福岡市総合図書館映像ホール・シネラ（早良区百道浜）

**参加者：**140人

**内 容：**

(1) イム・グオンテク（林権澤）監督による講演（13：30～14：15、45分間、同時通訳）

テーマ：「次代の映画作家に伝えたいこと」

(2) トークショー（14：20～15：10、50分間、同時通訳）

講演後に、イム・グオンテク（林権澤）監督と日本映画大学教授石坂健治氏のトークショーを行い、韓国と日本の映画教育、アジア映画等について話を深めた。

(3) イム・グオンテク監督作品の上映（15：20～）

『春香伝』（2000年、カラー、35mm、121分、出演：チョ・スンウ、イ・ヒョジョン、イ・ジョンホン他）

(4) 講 師：イム・グオンテク（林権澤）氏（映画監督、韓国）

対談相手：石坂健治氏（いしがき・けんじ、日本映画大学教授、東京国際映画祭アジア映画部門プログラミング・ディレクター）

- ・イム・グオンテク氏略歴：1936年韓国全羅南道長城生まれ。映画監督  
朝鮮戦争後に釜山に移り、その後1956年にソウルに移る。映画製作アシスタントとして働くようになり、62年に映画監督としてデビューした。2002年に「酔画仙」により、韓国映画として初めてカンヌ国際映画祭で監督賞を受賞した。
- ・主 な 作 品：「キルソドム」「將軍の息子」「風の丘を越えて／西便制」「太白山脈」「祝祭」「春香伝」「酔画仙」「下流人生」他多数。
- ・石坂健治氏略歴：1960年東京都生まれ。日本映画大学教授  
早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了（専攻は映画学）。国際交流基金アジアセンターを経て、現在東京国際映画祭アジア映画部門のプログラミング・ディレクターを務めている。
- ・主 な 著 書：『ドキュメンタリーの海へー記録映画作家土本典昭との対話』『アジア映画の森ー新世紀の映画地図』『アジア映画で＜世界＞を見るー越境する映画、グローバルな文化』等



(講演) イム・グオンテク (林権澤) 監督



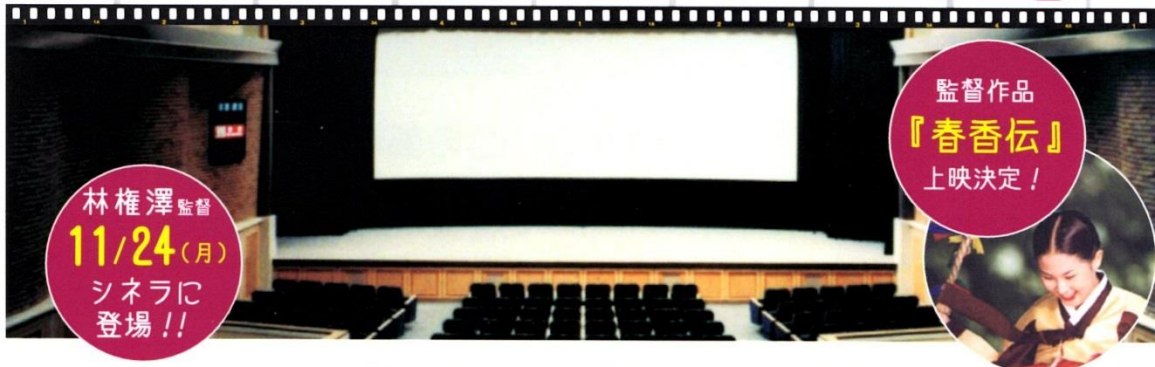
石坂健治氏と対談



「朝日新聞」2015年1月27日(朝刊)



# 平成26年度「福岡ユネスコ・アジア文化講演会」



## 第8回福岡アジア文化賞芸術・文化賞受賞者 韓国映画の至宝、林権澤(イム・グォンテク)監督、11月福岡に来訪

### 講演 「次代の映画作家に伝えたいこと」(13:30～14:15)

1997年(第8回)福岡アジア文化賞芸術・文化賞受賞者  
林権澤(イム・グォンテク)氏【韓国/映画監督】

1936年韓国全羅南道・長城生まれ。62年に『豆満江よさらば』で監督デビュー。伝統的な韓国文化を基盤にした『曼荼羅』(81年)『シバジ』(86年)『風の丘を越えて/西便制』(93年)『春香伝』(2000)などを発表。『醉画仙』(02年)により、韓国の映画監督として初めて3大映画祭で受賞(カンヌ国際映画祭監督賞)。これまでの監督作品は102本。2008年から釜山市の東西大学にある単科大学「林権澤映画芸術大学」の教授を務める。



### 対談 石坂健治氏とのトークショー (14:20～15:10)

講演後は、林監督と石坂氏が、韓国と日本の映画教育、アジア映画等について話を深めます。

石坂健治氏(日本映画大学教授)

早稲田大学大学院で映画学を専攻。国際交流基金を経て、2007年から東京国際映画祭アジア部門のプログラミング・ディレクター。2011年から日本映画大学教授。著書に『アジア映画の森新世紀の映画地図』等。現在、福岡アジア文化賞の選考委員も務めている。



### 上映 林権澤監督作品『春香伝』(15:20～17:20)

対談後は、皆様お待ちかね!林権澤監督作品『春香伝』の特別上映会です。

『春香伝』(2000年、121分、出演:チョ・スンウ他)

原作の「春香伝」は、李朝時代に書かれた純愛小説。何度も映画化され、これまで時代を代表するスターたちが主人公を演じてきた。本作は、パンソリを聞きながら見事な映像美を味わい、韓国伝統文化の豊かさを知ることができる映画となっている。



【日時】2014年11月24日(月・振替休日)13:30～17:20(13:00開場)

【会場】福岡市総合図書館映像ホール「シネラ」(福岡市早良区百道浜3丁目)

【入場料】一般/事前申込1,000円(当日1,200円)、学生・留学生/500円

ただし、定員に達した場合は当日の参加申し込みはお受けできません。

【受付期間】2014年10月10日～11月14日(14日必着)

ただし定員(242名)になり次第締め切らせていただきます。

【申込方法】メールかFAXにてお申し込みください

講演会名(「林権澤講演会」)、お名前、一般か学生の別、連絡先(メールアドレスかFAX番号)を明記の上、下記申し込み先にメールかFAXにてお申し込みください。

【申込先】一般財団法人福岡ユネスコ協会

メール:fuunesco2014@gmail.com または FAX:092-733-1291



共催:一般財団法人福岡ユネスコ協会、福岡市教育委員会、映像ホール・シネラ実行委員会 協力:福岡アジア文化賞委員会

**イ・ナムシ** 1936年 韓 国 南 浦 道 津 浦 里 生 ま れ。 62 年 「 浪 子 伝 説」 の 著 者。 代 表 作 は 「 風 を 追 っ て」 。 代 表 作 は 「 風 を 追 っ て」 。 代 表 作 は 「 風 を 追 っ て」 。

▶ 南 浦 道 津 浦 里 生 ま れ。 62 年 「 浪 子 伝 説」 の 著 者。 代 表 作 は 「 風 を 追 っ て」 。

風をならみられ、風をよ  
 白畑の石垣を、親子三人  
 が歩いてゆく。  
 「歌どもにさうらう生  
 へ胸もこころなほを解いて  
 ならふか  
 へ天には星かきふるみく我  
 が心は憂いに鳴りて  
 歌い交わす女は次第に頭  
 が垂り、鼻を手鏡を開いて  
 驚々と呼り出。韓国の伝統  
 歌謡「ハソリ」の世界を描  
 き、韓国を愛するソビエトを  
 唄った映画「風の丘を越えて」  
 西浦制の場面。余韻  
 潤南浦道長編劇出身の作家・李  
 権澤の傑作小説を原作に、  
 林権澤の脚本監修の映画監督・  
 柳権澤（8）がメガホンを取  
 った。

**南浦の哀歌  
 凝縮の5分間**

昨秋、福岡市内で講演し  
 た林権澤は、韓国映画史上で  
 語り継がれるものシーンにつ  
 いて解説した。

「カマラを仲間以上、回  
 定して撮影とロケション  
 までした。正直美しい、母も  
 おおらず、先師の遺志も立  
 ない親子が愛通して新しい  
 生に向かおうとする。その  
 魂を表現したので、

映画が芸術を通して書き出  
 された伝説的映画「ハソリ」は  
 全羅道を中心に発展し、東北  
 部の明瞭で勇壯な大々「東  
 部」と、南部の憂鬱や悲  
 哀を綴り出さうとする「西  
 部」に分かれ、全羅道地域  
 で発達した西部の語りだ、  
 林権澤と権澤は、巨匠の南  
 浦人としての哀歌を重く担  
 った。

韓国において、「南浦」は  
 一種独特の響きを持つて語ら  
 れる。広い地域帯帯として  
 豊かな農村文化が育まれた  
 が、遅く自立から現代ま  
 で政治権を失う東部の農村  
 道に奪われ、長く貧窮発展で

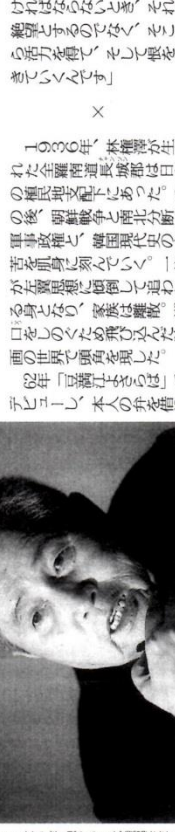
## 根と生

### 長興・韓国現代文学の水脈

□…4 □

## 林権澤

### 憂いを刻み 昇華する哀歌



写真と10本の作品がある林権澤監督  
(撮影・中井(一))



「風の丘を越えて」西浦制  
 で撮影された美しい風景  
 を表現したシーン

それは、低級映画を裏面にしな  
 がら、70年代末から韓国入  
 りに開かれた、韓国を唄った  
 映画(を愛する)のように作る。  
 さてと言えば「南浦」として  
 韓国の歴史を唄った映画  
 の一つとして、韓国の歴史を  
 唄っていた。  
 もしして出たのが、李  
 権澤の文学だった。「南浦後  
 の文学には南浦の生そのもの  
 の、真の姿がある。同じ国  
 地を愛するなど、ソビエト  
 にも南浦後と愛を築いた  
 林権澤は、96年に韓で映画  
 「浪子」を撮影した。李権澤  
 自身が手帳に「ソビエト大の  
 作家が母親の難産を過し、伝  
 説的家族社会の背景である「南  
 浦」に正面から向き合う。脚  
 本の前作は、李権澤  
 がその場で書き「同時進行で  
 撮影したソビエト愛を唄う秀  
 作だ。2人は韓国の根底に運  
 び込んで唄う。唄うという議論  
 を怠らないう。」

「歌は生活の根でしか  
 ないので、「歌」という字が  
 入り、歌のよりに大きな影  
 響を与えるのは好む。備  
 理院院長と土佐出身の韓  
 国は、2人がともに表現の核  
 心にあった問題だった。

#### 対極の間で 浮かぶ人間像

側面や縦横な側面が作  
 ったナムシ、人間性が描  
 く真実の映画は、やはり長編  
 出身の作家・韓国の長編  
 小説を原作とした長編映画  
 「ソビエト・ソビエト・ソビエト」  
 (映画「ソビエト」)で  
 も構築された。それは、  
 律の中で必死に修行する生  
 と、俗世の中で真実を求める  
 者が、時に愛を対照的に「面  
 面」から、愛は先。そ  
 うして林権澤は、実際の映画  
 でも、側面があつて、苦しめ  
 られた。その側面を、  
 韓国に、生を、真実を取  
 った。対立側面すべて、そ  
 の側面の存在によって照ら  
 出される。側面、側面も  
 また、側面を、側面として  
 きらめく光を生かす。むに  
 した。側面、側面の中に、希  
 望と真実の光を、側面と  
 語る。韓国の間で、人間性は  
 ほろびに愛を唄う。林権澤は  
 その側面を、側面として、  
 むに、人間性の、側面と、  
 現る側面を、側面として、  
 ない。すべての側面を、側面と

## 文化

7777  
 092-7711-5843  
 bun-a@naniwa.co.jp

### 3. 福岡ユネスコ文化セミナー2014

テーマ：「アジア主義—その先の近代へ」

日時：2015年1月24日（土）10：30～16：00

会場：電気ビル共創館3階 カンファレンス大会議室  
（福岡市中央区渡辺通）

参加者：110人

**【企画意図】**：西洋の近代化と違った形での近代化を目指した日本のアジア主義は、第2次世界大戦後はその否定的側面が強調されてきて、あまり再検討されてこなかった。しかし、近代化の先が見えにくい現代において、近年アジア主義を全体的に検討して、再評価する動きが出てきている。戦前にアジアとの接点として大きな働きをしていた福岡において、アジア主義、アジア思想の可能性について討議するもの。

内 容：

(1) 基調講演

中島岳志氏（北海道大学大学院法学研究科准教授）・・・ 10：40～11：50

テーマ：「アジア主義—その先の近代へ」

(2) パネルディスカッション・・・・・・・・・・・・・・・・ 13：00～

発表（各人50分）・・・・・・・・・・・・・・・・ 13：00～14：40

・若松英輔氏（批評家）・・・「東洋はどこにあるのか」

・安藤礼二氏（文芸評論家）・・・「夢野久作のアジア」

討議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14：50～16：20

コーディネーター：中島岳志氏

講師略歴

- ・中島岳志氏（なかじま・たけし）

1975年大阪府生まれ。

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程修了

現在北海道大学大学院法学研究科・公共政策大学院准教授

専門は南アジア地域研究、近代思想史

主な著書：『中村屋のボース』（大佛次郎論壇賞、アジア・太平洋賞大賞）『ナショナリズムと宗教』（第一回日本南アジア学会賞受賞）『中島岳志的アジア対談』『秋葉原事件』『血盟団事件』『岩波茂雄 リベラル・ナショナリストの肖像』他

- ・安藤礼二氏（あんどう・れいじ）

1967年東京都生まれ。

早稲田大学第一文学部卒業。文芸評論家。

主な著書：『祝祭の書物』『たそがれの国』『光の曼陀羅』『神々の闘争』他。

- ・若松英輔氏（わかまつ・えいすけ）

1968年新潟県生まれ。

慶応大学仏文科卒業。批評家。「三田文学」編集長。「越知保夫とその時代」で三田文学新人賞評論部門受賞。

主な著書：『井筒俊彦』『魂にふれる』『池田晶子 不滅の哲学』他

### (3) 著書サイン会



中島岳志氏による基調講演



パネリスト若松英輔氏（左）と安藤礼二氏



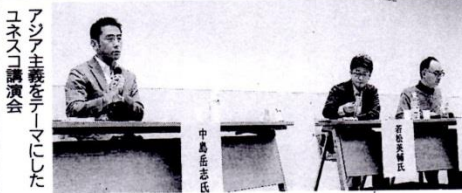
パネリストによる討議



著書サイン会

# アジア主義を考える

中島岳志 若松英輔、安藤礼一 3氏が鼎談



アジア主義をテーマにしたユネスコ講演会

## 反西洋ではない、見果てぬ可能性

アジアの連帯を目指し、19世紀末から20世紀初頭に展開された「アジア主義」をテーマにしたシンポジウム(福岡ユネスコ協会主催)が福岡市内であった。北海道大学准教授の中島岳志、批評家の若松英輔、文芸評論家、安藤礼一の3氏が登壇し、思想の現在性について語り合った。

アジア主義は、福岡の政治結社、玄洋社などが唱えた思想・運動で、西洋列強への対抗や、西洋とは違つた形での近代化を目指した。孫文など革命家への支援にもつながったが、徐々に膨張主義的な意味合いが強まり、「大東亜共栄圏」構想と結びついていった。

基調講演で中島さんは、明治維新以降の社会を振り返りながら、玄洋社のアジア主義は自由民権運動から生まれたと指摘した。今では「右翼」と見られがちだが、玄洋社が「国を愛する」ということは国民が主権を取戻すこと、玄洋社も強力的な政治的なハラスを企

た形での近代化を目指した。孫文など革命家への支援にもつながったが、徐々に膨張主義的な意味合いが強まり、「大東亜共栄圏」構想と結びついていった。

基調講演で中島さんは、「近代に対するアンチテーゼでもあった活動の成就が、近代システムを加速させる難問に直面した結果、帝国主義に飲み込まれていったと分析した。また玄洋社が「国を愛する」ということは国民が主権を取戻すこと、玄洋社も強力的な政治的なハラスを企

**文化**

ファクス 092(711)6243  
メール bunka@nishinippon.co.jp

に「対米追従だけではない、アジアとの関係が大事になった。だから、アジアとは何かを知る必要がある。100年前のアジア主義者も考えたこと。その功罪を考えることはあくテクニカルな問いだ」と問題提起した。

若松さんと安藤さんも、思想の源流を探った。若松さんは「政治だけでなく、文学、美術、哲学などの分野で同時多発的に起こった」とアジア主義を定義した。安藤さんは「東洋も最初からあるわけではなく、西洋が世界を覆おうとしたときに、別のオルタナティブとして東洋アジアが生まれた」と、近代の超克の問題もはらんでいて」と指摘。中島さんは「東洋は単に反西洋ではない。西洋との葛藤の中で唱えた『主と客』、『精』の神と『物質』を一つのものとしてとらえた二元論に注目。『その考え方がアジア主義の源流でもある。夢野久作や宮沢賢治を同じような思想が根底に流れている」と補強した。

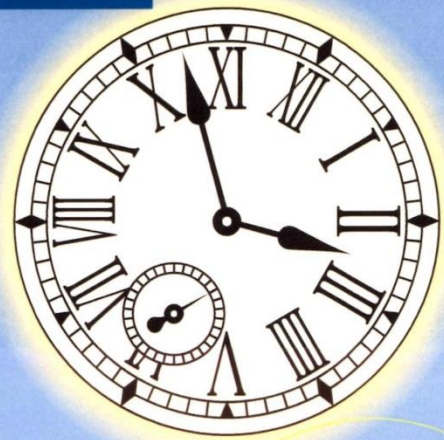
3人による鼎談では「アジアとは何か」という問題は焦点が移った。安藤さんは「東洋も最初からあるわけではなく、西洋が世界を覆おうとしたときに、別のオルタナティブとして東洋アジアが生まれた」と、近代の超克の問題もはらんでいて」と指摘。中島さんは「東洋は単に反西洋ではない。西洋との葛藤の中で唱えた『主と客』、『精』の神と『物質』を一つのものとしてとらえた二元論に注目。『その考え方がアジア主義の源流でもある。夢野久作や宮沢賢治を同じような思想が根底に流れている」と補強した。

見失ってしまう。アジアとは無数なものに成り代わる可能性で「アジア主義者も『見果てぬアジア』を持っていた」

グローバル化と反グローバル化が同時進行している現代。アジアという枠組みも自在に伸縮し、捉え所がなくなりつつある。「見果てぬアジア」が何なのか？ 依然、答えは見つかっていないようだ。ただ一つ言えるのは、かつてのアジア主義者が見ようとしたアジアは、EUのように功利主義的に拡大された共同体でも、排他的に純化された共同体でもないことである。(小川祥平)

# 福岡ユネスコ文化セミナー 2014

竹内好は『日本のアジア主義』の中で、宮崎滔天が思想的に岡倉天心と出会わなかったことについて、「それはなぜなのか、というのが私の問題である」と述べました。  
西洋とは違った形での近代化を目指した日本のアジア主義は、第2次世界大戦後にその否定的側面が強調されて、歴史の表舞台から遠ざかってしまいました。  
そのような中で、アジア主義の脈をたどり直すことは、近代化の先が見えにくい現代において、東洋世界がもつ豊かな思想的可能性を追求する新たな試みとなります。



テーマ

## 「アジア主義 —その先の近代へ—」

基調講演

コーディネーター



中島岳志氏

1975年大阪府生まれ  
北海道大学大学院法学研究科准教授  
専門は南アジア地域研究、近代思想史  
主な著書:『中村屋のボース』(大佛次郎論壇賞、アジア・太平洋賞大賞)『ナショナリズムと宗教』(日本南アジア学会賞)『いま(アジア)をどう語るか』(共著)『秋葉原事件』『リベラル保守』(宣言)『血盟団事件』『岩波茂雄』『アジア主義』『現代の超克』(若松英輔と共著)

パネリスト



安藤礼二氏

1967年東京都生まれ  
文芸評論家  
主な著書:『神々の闘争 折口信夫論』(群像新人文賞、芸術選奨新人賞)『光の曼陀羅 日本文学論』(大江健三郎賞、伊藤整文学賞)『祝祭の書物』(折口信夫)

パネリスト



若松英輔氏

1968年新潟県生まれ  
批評家、『三田文学』編集長  
主な著書:『井筒俊彦 観心の哲学』『魂にふれる』『池田晶子 不滅の哲学』『岡倉天心「茶の本」を読む』『吉清義彦一詩と天使の形而上学』『生きる哲学』

2015年

1月24日(土) 10:30~16:20

電気ビル共創館3階

(福岡市中央区渡辺通2丁目、定員180人)

カンファレンス大会議室

料金

一般:事前申込 1,500円(当日1,700円)

学生・留学生 1,000円(事前・当日とも)

申込み方法

催し名(「アジア主義」、氏名(参加者全員)、連絡先FAXまたはメールアドレス、一般/サポーター/学生の別を明記の上、メールかFAXで申し込んでください。

●メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com

●FAX: 092-733-1291

主催 問い合わせ先  
一般財団法人 福岡ユネスコ協会 (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

#### 4. 福岡ユネスコ研究講演会

目 的：九州出身あるいは九州で活躍している研究者の日頃の研究内容を市民向けに少しわかり易い形で講演してもらい、その講演録をブックレット化することにより、地元研究者と市民の接点を作るとともに研究者とのネットワークづくりを進めるもの。

テーマ：「かくれキリシタンのオラショを巡る旅」

講 師：中園成生氏（なかぞの・しげお、長崎県平戸市生月町博物館・島の館 学芸員）

期 日：2014年10月18日（土）14：00～16：30

会 場：西南学院大学博物館（ドージャー記念館）講堂

参加者：47人

【企画意図】：キリスト教が禁教とされた時代を生き抜き、「かくれキリシタン」と呼ばれながら現在まで信仰を守り続けてきた人たちが多く住む、長崎を中心とした九州西岸地域。「長崎県の教会群とキリスト教関連遺産」が2016年の世界文化遺産認定に向けて推薦が決まったこの時に、「かくれキリシタン」についての従来のとらえ方と違う新たな面を浮かび上がらせる最新の研究内容をご紹介しますとともに、長く信者に伝えられてきた「オラショ」の分析、信者の方3人によるオラショの実演を通じて信仰の継承の意味を探るもの。

講師略歴：昭和38年（1963）福岡市生まれ。

熊本大学地域科学科（民俗学専攻）卒。福岡県内、佐賀県内で文化財行政に従事し、呼子町教委勤務を経て現職。

おもな研究分野は捕鯨史、かくれキリシタン。

主な著作：『かくれキリシタンの聖画』（共著、1999年、小学館）『生月島のかくれキリシタン』（2000年、平戸市生月町博物館・島の館）『くじら取りの系譜』（2001年、長崎新聞社）『鯨取り絵物語』（共著、2000年、弦書房、第23回地方出版文化功労賞受賞）



講演する中園成生氏



信者によるオラショの実演

テーマ 「かくれキリシタンの  
オラショを巡る旅」

キリスト教が禁教とされた時代を生き抜き、「かくれキリシタン」と呼ばれながら現在まで信仰を守り続けてきた人たちが多く住む、長崎を中心とした九州西岸地域。「長崎県の教会群とキリスト教関連遺産」が2016年の世界文化遺産認定に向けて推薦が決まったばかりです。この時に、あらためて「かくれキリシタン」とは何かを問い、従来のとらえ方と違う新たな面を浮かび上がらせる最新の研究内容をご紹介しますとともに、長く信者に伝えられてきた「オラショ」の分析を通じて、信仰の継承の意味を探ります。特に、信者の方々による「オラショ」実演により、立体的な理解を得られる講演会とします。

講師 中園成生氏(なかその・しげお)  
長崎県平戸市生月町博物館・島の館 学芸員

1963年福岡生まれ。  
平戸市生月町博物館・島の館学芸員  
主な研究分野は捕鯨史、かくれキリシタン。  
解本大学地域科学科(民俗学専攻)卒。  
福岡県内、佐賀県内で文化財行政に従事し、  
呼子町教育委員会勤務を経て現在に至る。  
主な著作  
○「かくれキリシタンの聖画」(共著、小学館)  
○「生月島のかくれキリシタン」(平戸市生月町博物館・島の館)  
○「くじら取りの系譜」(長崎新聞社)  
○「鯨取り絵物語」(共著、弦書房、第23回地方出版文化功労賞受賞)



信者の方々による「オラショ」の実演も行います

2014年 **10月18日(土)** 14:00~16:30  
西南学院大学博物館 (ドージャー記念館) 講堂  
福岡市早良区西新3丁目 定員200人

●入場料: 一般: 事前申込 1,000円(当日1,200円) 学生・留学生 500円(事前・当日とも)

申込方法

- ①~④を明記の上、下記メールまたはFAXの宛先までお申し込みください。  
①催し名(「かくれキリシタン」) ②氏名(参加者全員)  
③連絡先FAXまたはメールアドレス(申込受理の返信をします)  
④一般/福岡ユネスコサポーター/学生 の別  
●申込先: メール fuunesco2014@gmail.com FAX: 092-733-1291

●主催: 一般財団法人福岡ユネスコ協会 TEL: 092-715-8768(問合せ: 平日10~17時)

●締め切り: 10月14日(火)

▼ 以下にご記入の上、福岡ユネスコ協会までFAXしてください FAX: 092-733-1291

※複数でお申し込みの場合は全員のお名前をご記入願います。10/14(火)までに当協会から申込受理の返信がない時は必ずお問い合わせください。

ふりがな 氏名	※返信可能な連絡先をご記入ください。
	Fax Email
参加人数	
一般 ( ) 名、学生 ( ) 名、留学生 ( ) 名	



## 5. ブックレット等の出版物の刊行

当協会で開催する文化講演会の講演内容や活発な討論の記録を広く伝えるためにブックレット形式の「FUKUOKA U ブックレット」シリーズとして、また文化セミナーについても単行本として地元の出版社弦書房から発刊し、全国の一般書店で販売することにより、当協会の継続的な活動を紹介している。

第7号 東 靖晋著『西海のコスモロジー — 《海人たちの時間と空間》』  
(2014年11月1日発行)

第8号 四方田犬彦著『よみがえる夢野久作 — 《『東京人の墮落時代』を読む》』  
(2014年12月15日発行)

有馬学、マイケル・ピアソン他著『山本作兵衛と日本の近代』  
(2014年8月20日発行)



ブックレット第7号

ブックレット第8号



『山本作兵衛と日本の近代』

## 一般財団法人福岡ユネスコ協会略年表 (2) <通算 50>

— 2014年4月～2015年3月 —

### 2014年(平成26年)

- 5月17日(土) **福岡ユネスコ文化講演会(福岡市)** 於:福岡市中央区渡辺通「電気ビル共創館」  
講師:四方田犬彦氏(映画史家) 3Fカンファレンス  
演題:「日本人の墮落時代 夢野久作」 大会議室
- 5月30日(金) 第1回理事会開催 於:福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」  
小会議室
- 5月30日(金) 第1回評議員会開催 同上
- 10月16日(木) 第2回理事会開催 於:福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」  
小会議室
- 10月18日(土) **福岡ユネスコ研究講演会** 於:福岡市早良区西新  
講師:中園成生 「西南学院大学博物館  
講堂」  
演題:「かくれキリシタンのオラショを巡る旅」
- 11月24日(月・休日) **福岡ユネスコ・アジア文化講演会** 於:福岡市早良区百道浜  
講師:林権澤(イム・グオンテク)(映画監督) 「福岡市総合図書館」映  
演題:「次代の映画作家に伝えたいこと」 像ホール「シネラ」  
トークショー 対談者:石坂健治(日本映画大学教授)  
韓国映画『春香伝』の上映

- 2015年(平成27年) **福岡ユネスコ文化セミナー2014** 於:福岡市中央区渡辺通「電気ビル共創館」  
テーマ:「アジア主義—その先の近代へ」 3Fカンファレンス  
1月24日(土) 基調講演:中島岳志(北海道大学准教授) 大会議室  
パネリスト:若松英輔(批評家)  
安藤礼二(文芸評論家)  
コーディネーター:中島岳志
- 3月4日(水) **福岡ユネスコ文化講演会&トークショー(北九州市)** 於:北九州市戸畑区汐井町  
「葉室麟の世界にふれる」 「ウエルとばた・戸畑市  
講師:葉室麟(作家) 民会館」中ホール  
トークショー聞き手:和泉僚子(文学研究家)
- 3月31日(火) 第3回理事会開催 於:福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル本館地下 2  
Fカンファレンス」  
第1会議室
- 3月31日(火) 第2回評議員会開催 同上

福岡ユネスコ協会の国際文化会議、シンポジウム、セミナー(通年の記録)

International Cultural Exchange Program Sponsored  
by the Fukuoka UNESCO Association

開催年	催し	テーマ
1) 1962	第1回九州国際文化会議	「日本における東西文化の接点としての九州」
2) 1967	第2回九州国際文化会議	「日本近代化と九州の役割」
3) 1971	第1回日本研究国際セミナー	「アジアにおける日本」
4) 1972	第3回九州国際文化会議	「アジアにおける日本」
5) 1974	第2回日本研究国際セミナー	「新しい日米関係を考える」
6) 1977	第4回九州国際文化会議	「戦後33年の日本」
7) 1979	国際シンポジウム	「マスメディアと国際理解を促す諸条件」
8) 1982	第5回九州国際文化会議	「80年代の国際社会と日本」
9) 1983	'83 福岡国際シンポジウム	「都市の国際化」
10) 1984	'84 福岡国際シンポジウム	「国際化と教育」
11) 1985	'85 福岡国際シンポジウム	「国際化とコミュニケーション」
12) 1986	第3回日本研究国際セミナー	「海外における日本研究の課題と展望」
13) 1987	第6回九州国際文化会議	「現代の日本と世界」
14) 1988	東アジア研究・福岡国際文化会議 '88	「一 国連大学研究・研修センター誘致推進」
15) 1989	第4回日本研究国際セミナー '89	「日本の近代文学と芸術」—明治期—
16) 1990	第5回日本研究国際セミナー '90	「日本の近代文学と芸術」—大正期～昭和初期—
17) 1991	第6回日本研究国際セミナー '91	「日本の近代文学と芸術」—戦前・戦中・戦後—
18) 1992	第7回九州国際文化会議	「90年代の世界と日本」
19) 1993	第7回日本研究国際セミナー '93	「アメリカにおける戦後日本の政治研究」
20) 1994	第8回日本研究国際セミナー '94	「近代への転換期における藤村文学」
21) 1995	戦後50年記念・国際シンポジウム '95	「戦後50年の日本の文化・社会・ジャーナリズムの思想的変容」

- |     |      |                    |                                      |
|-----|------|--------------------|--------------------------------------|
| 22) | 1996 | 福岡国際シンポジウム'96      | 「日本の近・現代をめぐって<br>—日・独近代化の視点から—」      |
| 23) | 1997 | 第8回九州国際文化会議        | 「21世紀への課題と展望」                        |
| 24) | 1998 | 第9回日本研究国際セミナー'98   | 「ロナルド・ドーア教授の日本研究50年」                 |
| 25) | 1999 | 第10回日本研究国際セミナー'99  | 「ドナルド・キーン教授と日本文学」                    |
| 26) | 2000 | 第11回日本研究国際セミナー2000 | 「世界における日本研究と加藤周一」                    |
| 27) | 2001 | 第12回日本研究国際セミナー2001 | 「21世紀の世界と日本の課題」                      |
| 28) | 2002 | 第9回九州国際文化会議        | 「21世紀の世界と日本の選択」                      |
| 29) | 2003 | 第13回日本研究国際セミナー2003 | 「国民文学を考える<br>—『宮本武蔵』と『竜馬がゆく』—」       |
| 30) | 2004 | 第14回日本研究国際セミナー2004 | 「自由主義者 石橋湛山の思想と評論」                   |
| 31) | 2005 | 第15回日本研究国際セミナー2005 | 「日本近代文学の回顧と展望—21世紀を迎えて—」             |
| 32) | 2006 | 文化講演と討議            | 「政治と文学—今世紀の変容に込めて—」                  |
| 33) | 2007 | 創立60年記念国際文化セミナー    | 「日本の文化と心」                            |
| 34) | 2008 | 福岡国際文化セミナー2008     | 「続・日本の文化と心—日本語を基座として—」               |
| 35) | 2009 | 福岡国際文化シンポジウム2009   | 「いま、アジアをどう語るか<br>— 現代化と歴史認識のはざままで —」 |
| 36) | 2010 | 福岡国際文化シンポジウム2010   | 「越境するアジアの文化 — 現状と可能性 —」              |
| 37) | 2011 | 公開講演と学術シンポジウム      | 「辛亥革命と東アジア」                          |
| 38) | 2012 | 福岡国際文化セミナー2012     | 「山本作兵衛と日本の近代」                        |
| 39) | 2013 | 福岡ユネスコ文化セミナー2013   | 「未来に可能性はあるか? —3.11以降の社会構想—」          |
| 38) | 2014 | 福岡ユネスコ文化セミナー2014   | 「アジア主義 —その先の近代へ—」                    |

一般財団法人福岡ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の理念に基づき、教育、科学、文化を通じて国際理解を深め、地域社会におけるユネスコ活動の進展をはかることにより、世界平和に貢献することを目的として、ユネスコ精神に共鳴する有志が相集い相協力し合って、自主的にユネスコの理念の具体化を計るため、当地域（福岡）を基盤に諸文化活動、並びに国際文化活動を行う民間団体です。

